

事業名称	スマート図書館の構築		
寄附目標額	23,735千円	古河市総合計画の位置付け	3 - 5 - 3
事業区分	デジタル技術で多様な主体と共に創るまち事業		
関連するSDGs	4 質の高い教育をみんなに		
現在抱えている課題	古河市は市内に図書館が2館、公民館図書室が5室存在するが、地理的バランスが取れていない。例えば、三和図書館は市の東端、市街地から外れた場所にあり、唯一の公共交通である市のコミュニティバスは2時間おきにしか停車しない。利用者が足を運ぶことが困難なこと等から、市民の図書館の利用が少ない状況である。日本図書館協会の調べでは、古河市と同様の人口段階の市における人口100人当り館外貸出冊数は、年平均535冊であるが、古河市の令和5年度冊数は 218冊しかなく、市民の読書活動は活発とは言えない。		
プロジェクトの概要及びポイント	電子図書館システムを導入することで、古河市在住在勤・在学の方であれば、24時間365日、いつでもどこでも図書館資料（電子書籍）を閲覧できるようにし、来館困難者の図書館の利用を可能にする。また、これまで三和図書館が一極集中で管理していた市内8か所の図書館・図書室・貸出ポイントについて、図書館システムをクラウド化して改善する。併せて、次のサービスを行う。①自宅からオンラインでできる利用登録申請。②スマホでの図書利用カードの表示。③スマホでの検索予約機能と、LINE連携やイベントのプッシュ型告知。④セルフ貸出機設置。		
目指す将来像	当事業の実施により、新たな利用者の掘り起こしと、デジタル化による高齢者や障がい者へのサービスの向上（文字拡大・音声読み上げ機能等）を実現する。また、GIGAスクールで配備された児童生徒の一人一台端末で電子図書館を利用することで、子どもの読書活動の推進・学校のICT環境の効果的活用を図り、小中学生の読書環境を改善する。これら事業の実施により、図書館サービスの満足度を向上し、図書館利用者及び図書貸出冊数を増やし、市民の読書活動が活発な地域の実現を図る。		
事業担当課	三和図書館		